

# 地名の由来と史跡と文化財

南総地区（鶴舞・平三編）



鶴舞神社

上総の国いちはらの歴史を知る会

（ふるさと市原をつなぐ連絡会会員）

令和3年2月編集・製作

## まえがき

人類は、今から700万年前にアフリカ大陸でサル類（チンパンジー）から枝分かれして「二足歩行の人類」となった。その後徐々に進化し約10万年前に一部の人類がアフリカを出ていくつかの人種に変化し大陸に住み着きました。

旧石器時代（先土器時代・無土器時代）～紀元前1万4千年前頃、我が国にも大陸から渡り来て住み着いたと思われます。その頃の日本列島はユーラシア大陸と地続きであり、彼らはマンモスやナウマン象、大角鹿などの大型動物を追いかけて日本列島にやってきた。食料調達には、主に狩猟や採取を行い、石を打ち砕いて造られた打製石器を使用した。食器などはなかった。

私たちの住みます「いちほら」にも人が住み始めて3万年の歳月が過ぎ、いくつかの大規模な集落が出来てきました。そして弥生時代になると大陸から稲作が持ち込まれ、肥沃な土地では稲作が行われるようになり、権力者による統治が始まった頃と思われます。その中で、大変興味深い説があります。縄文時代の頃に、日本列島に太平洋南方より現ポリネシア語（マオリ語）を話す民族が渡来し、住み着いた人たちが初めて地名を付けたという説です。それらの古い時代に付けられた今とあまり変わらない発音で、今も多く使われています。その中でも「古事記」や「日本書紀」などの古典や日本語の中にも、多くの現ポリネシア語源の言葉を見ることができますが、文字で表すものはありませんでした。

しかし弥生時代になると朝鮮半島より渡来した人により漢字が伝わって来て、今まで言葉で伝えられていた呼び方に、適当な漢字を当てはめたものです。例えば、日本の象徴の山「富士山」は、マオリ語では「フチ（HUTI）」「引き上げられた山、または釣り上げられた山」という意味となります。そして、浅間神社は熊野神社と並び最古の部類の神社と思われませんが、富士山の神を祀る「式内富知（ふち）神社」が最も古い神社と思われま

す。縄文時代には、争いごとは少なかったと言われていたのですが、水稻耕作が始まった弥生時代になると「定住民」が増えることにより、土地の利権争いが起き、古くから住んでいた縄文人は弥生人に圧倒されることになった。但し、古くからあった地名すべてが「現ポリネシア語（マオリ語）」という訳ではありません。

北海道には「アイヌ民族」のアイヌ語があり、沖縄には「琉球民族」が話す「琉球語」が存在する。

また、それぞれの地方には「方言」があり、その地方特有の言葉があります。

参考ですが、古来より「サ」が付いた名には「神様」に関係したものが多く見られます。

例えば、神社の敷地内は「境内（ケイダイ）」という聖域と一般の地を分ける「さかいめ」があり、神様が山から「さと（里）」に下ってくる道を「さか（坂）」と言います。また、祀りの際の神様の貴賓席を「さじき」と呼び、庶民は地面の芝に座ったので「芝居」という言葉が生まれたと言われています。

今回は、上総国市原郡内の中央部に位置します「鶴舞・平三地区」の地名の由来と、その地にある史跡や文化財などを紹介します。



## 市原郡内の牛久地区の地名の由来

### 千葉県の名の由来

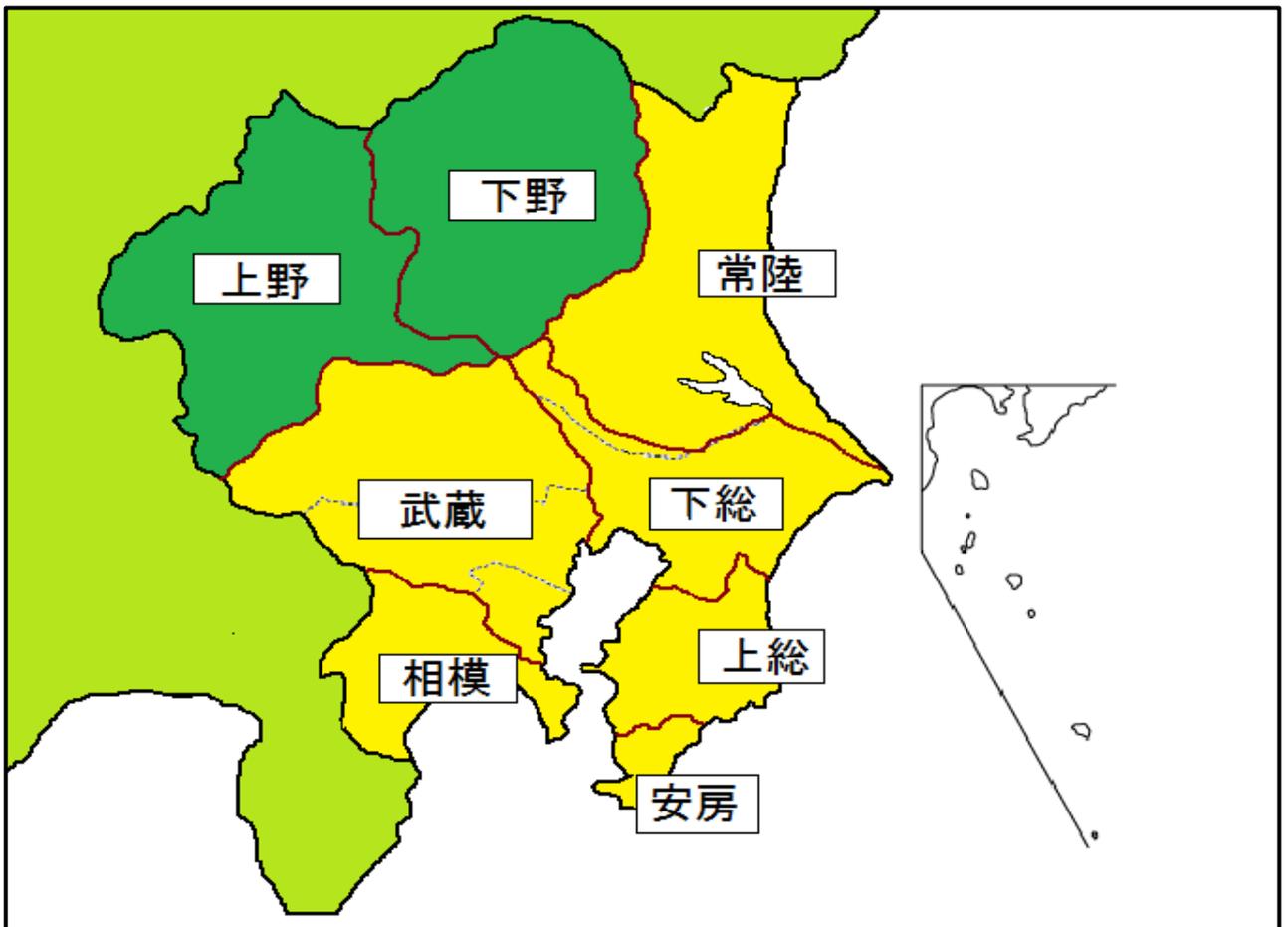
千葉県は江戸期までは総国（ふさのくに）と呼ばれており、茨城県南西部の一部と埼玉県東部の一部も含まれていました。この地域は7世紀後半の令制国の建置により、上総国と下総国が成立しその後養老2年（718年）に上総国から4郡が分かれ安房国が誕生した。

「総」の語源は、「古語拾遺」によると、「天富命（あまとみのみこと）」が安房国から齊部氏を率いて東上し、麻を植えたところ、良い麻が生えたので、総（麻）の国としたという説と、「風土記逸分」によると「総」とは木の枝を言い、昔この国に大きな数百丈のクスの木が生えていたが、大凶事との占いが出たので切り倒したところ、南に倒れたので、上の枝を「上総」と言い、下の枝を「下総」と言ったと記されているが、いずれも根拠が弱く、他にも「塞ぐ」からで「山などが周囲にある土地」や「ふし」の転訛で「高い所」の意味する説などがあるが、現在では朝廷の都に近いほうが上であり「上総」と付けられたという説が正しいと考えられる。

なお、「ふさ」はマオリ語で「フ・タ」で、「浸食された丘陵がある地域」の転訛と訳します。

「和名抄」に、下総国相馬郡布佐（ふさ）郷があり、現我孫子市東端の布佐の地域と思われる。上総国には、市原（国府所在地）・海上・畔蒜（あびる）・望陀（ぼうだ）・周准（すえ）・天羽・夷隅・埴生・長柄・山辺・武射の11郡がある。

下総国には、葛飾・千葉・印旛・埴生・匝瑳・海上・香取・相馬・猿島（さしま）・結城・豊田の11郡が、安房国には、平群（へぐり）安房・朝夷（あさひな）・長狭の4郡で国造りがされた。市原郡は「伊知波良」と書き、中世には市西郡と市東郡に別れ、山田郡も郡域内にあったと思われます。国府の所在郡でもあり郡内には、海部（あま）郷・市原郷・湿津郷・江田郷・菊麻郷・山田郷の6郷があった。江戸期には、このほかに、海北郷・佐是郷など、旧海上郡域も併合された。



市原

# 市原市の地区別地図

020/9/26

行政区-scaled.jpg (1829×2560)



## 市原郡内地名の由来と神社、仏閣、史跡、文化財の紹介

※ アンダーライン部は、古代マリオ後（現ポリネシア語）での表現を日本語に転化したもの。

### 上総国市原郡の6郷

#### 1・海部郷（あまのこう）

平安期にあった郷で、高山寺本の訓は「安万」東急本は「阿万」と呼ばれており、海士有木に比定されている。漁業、航海を中心とした職業的品部に由来する地名。

#### 2・市原郷（いちはらこう）

平安期にあった郷で、市原・能満・門前・郡本付近に比定されている。地名の「イチ」は集落の意味、または「稜威」（いつ）の転嫁で美称か。櫟（いちい）の繁茂する原野の意味とする説もある。

※藤井は、万治2年（1659年）に郡本より分村したのと、山田橋は元は山田郷に属していたので、市原郷には含まれなかった。

#### 3・湿津郷（うるつこう）

平安期にあった郷で、高山寺本の訓は「宇流比豆」、東急本では「宇留比豆」。市原市潤井戸付近に比定される。地名の由来は、「ウルヒ（湿）・ツ（場所）」と考えられる。村田川の上流で、豊富な涌泉があることから命名された地名と思われる。

#### 4・江田郷（えだこう）

奈良期にあった郷で、高山寺本・東急本ともに訓は「衣多」。市原市吉沢付近は古くは江田郷と称したと伝えられ、当郷の比定と思われる。他に、市原市八幡付や市原市江古田などを含む養老川上流右岸の広大な地域を郷域としている。

#### 5・菊麻郷（くくまこう）

平安期にあった郷で、東急本では「菓麻」と書く。訓は、高柳寺本・東急本ともに（久々万）。

市原市菊間付近に比定されている。地名の由来は、「くくまった（包み込まれたような）・地」の意味

#### 6・山田豪（やまだこう）

平安期にあった郷で、東急本の訓は「夜万多」。市原市山田付近に比定されている。

地名の由来は、「山を開いて田を作ったところ」の意味か、「山間の田」あるいは「山処（やまど）」の転嫁で、「山のある処」とも考えられる。

## 鶴舞地区（池和田・下矢田・田尾・鶴舞・矢田・山小川）

### 概説

鶴舞台地は縄文遺跡で占められており、先住民にとっては生活しやすい所であったらしい。富士台から江古田にかけては前方後円墳を含む一大古墳地帯であり、古墳時代、上海上国造の支配下にありながら、相当の勢力をもった豪族が存在していたと想像される。

鎌倉時代には、和田太郎正治がこの地で勢力を振るい、付近には大きな沼や池があったことから、この地を「池の和田」としたという地名説がある。その後、大永元年（1521年）8月1日に池和田城の城主が里見家の重臣多賀信繁となり、以来里見家と北条家の合戦が続いたが、永禄7年（1564年）に北条氏政に攻められ、城主多賀孝明は自ら城に火を放って自刃してしまった。その間、多賀氏は1521年に石川に竜溪寺を創建し林祥寺、長泉寺など、曹洞宗の布教に努めた。

現在の中心地である鶴舞は、当初は石川の字に属し、桐木台と称する五穀素菜の栽培地であったが、明治元年菊間藩水野氏の所領となり、続いて同年に浜松城主井上正直に移封され、北子来に藩邸を設けたことから、にわかには市井となった。鶴舞の名称については、地形が鶴が舞う形に似ていたからという説や、鶴の舞う慶祥の地にしようということで、「鶴舞」としたと言う説と、内田村の谷間に「小字鶴舞谷」という名称があるので鶴舞とした説がある。

鶴舞城は、築城半ばにして工事をやめたものの、外濠や城の用材で造ったと言われる鶴舞神社などが残っている。明治維新により、武士の多くは職を失い、教師や巡査、郡役所の書記等に変わって行ったことから、当時鶴舞藩士が多く起居していた鶴舞の文化や産業における優位性が窺える。俗に「佐倉巡査に鶴舞教師」と言われるように、鶴舞藩の官員は教師になった者が多いようです。

明治6年には郡内初の警察、7年には八幡・姉崎・牛久に続いて郵便局ができ、22年には郡内初の銀行・会社・製糸工場が設置された。

明治24年の町制施行時には、この鶴舞の台地に約200の商店を有し、鶴舞銀行と生命保険会社4社の代理店が立地し、米穀の取引など八幡町との交流が盛んであった。

明治4年7月に井上氏は鶴舞県知事となったが、11月には鶴舞県が廃止され、木更津県となり、6年に千葉県に属することになりました。

明治11年郡区町村制施行に際し、鶴舞、田尾の2村と矢田、下矢田、池和田、山小川の4村は村連合を組織したが、明治22年町村編制法施行にあたり、鶴舞・池和田・矢田・下矢田・田尾・山小川の6ヶ村で鶴舞村と称し、同24年八幡・五井に続いて町となり、その後昭和29年には、南総町となった。

鶴舞公園の桜まつり風景



池和田（いけわだ） 神社・寺院・史跡文化財・城址 大宮神社・光明寺（天台宗）・池和田城跡

鎌倉期は、池和田村。戦国期に里見氏の支城の池和田城が築城された。地名の由来は、和田太郎正治が当地で勢力を振るい、大きな池があったことから「池の和田」と呼ばれたことから名づけられたという説。

### 大宮神社（おおみやじんじゃ）

所在地 市原市池和田字大宮部田 932 番地

創建時期 不詳

祭神 大己貴命 神紋 左三つ巴

宮司 松井 由香里

由緒・伝説 旧村社。創建年代、由緒不詳。社殿内の扁額

には「王宮大権現」とあり、明治 27 年

（1894 年）二十三夜（字白坂：月読命）、

明治 42 年（1902 年）天王神社（字大作下

：素盞鳴命）昭和 3 年（1928 年）天王神社

（字岩井戸：素盞鳴命、大宮神社末社）山王神社（字岩井戸：香山戸命、大宮神社末社）

を合祀。



池和田神社拝殿右正面



参道石段と鳥居（天保 5 年）



右奥が本殿の建物



珍しい三猿の祠

### 音信山光明寺（おとずれさんこうみょうじ） 天台宗

所在地 市原市池和田字大塚 701 番地

創建時期 永観元年（983 年）に再興

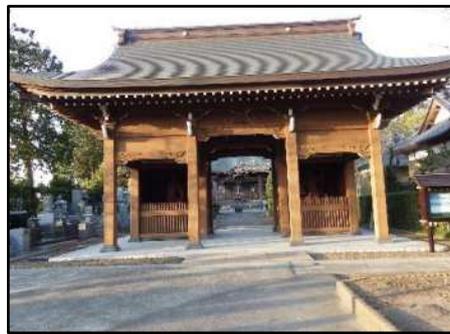
本尊 不詳

住職 河邊 堯周

由緒・伝説 光明寺は、聖武天皇の勅建に係わる金光明寺の一つという。もとは高滝字山口の深山にあったと言い、地名に胡麻坂、門前谷などの遺称が残っている。永観元年、比叡山檀那大僧正覚運が再興し、現在に至る。縁起によれば、覚運が夢で異様な時鳥に道案内されたどり着いた山川は三峰が天の台座のようにそびえ、霊泉が湧く不思議な霊地であった。その名を問うと地蔵菩薩が「これぞ総州第一の名山三重山なり」と答えられたのを聞いて目覚めた。その霊地を探し出し堂宇を建て、法弟の覚源に命じて寺を守らせた。その時、宝鈴を渡し、その鈴の音は必ず叡山の本堂に達する、決して怠るなと伝えた。その宝鈴にちなんで音信山と号し、鈴も音信の鈴と呼ぶ。音信山脈の地名もこの寺名にちなむという。また、境内にあるお堂の御本尊・鉦鼓観世音は天正 18 年万木城主・土岐氏が敗れた後、家臣・中里上野が仏法に帰依し祈祷に鉦（かね）と鼓（つづみ）を使っていた。慶長 18 年（1610 年）にそのお堂が火災に遭ったが、鉦と鼓は物体に変化をしていた。上野はこれを観世音としたという。



光明寺本堂と参道



光明寺の山門・左右に阿吽像



本堂内の祭壇、奥に阿弥陀如来



山門の右側の阿吽の木造



本堂右前の仏塔



本堂左奥にある鐘楼と釣鐘

**池和田城跡** (いけわだじょう)  
**所在地** 市原市池和田字城廻  
**築城時期** 戦国期  
**築城主** 里見氏家臣の多賀越中守  
**説明**

池和田城は平蔵川にかかる鶴見橋のすぐ北側にある比高25mほどの台地上にある。この台地は北側の基部の方が切通しとなって、切り離されており、この所に城址標柱が建っている。



城の南側は平蔵川の崖、西側は沼という要害の地となっている。

鳥瞰図は、南西上空から見たもので、本丸は城内最高所で、切通しの道から上って来ると井戸の脇を通過してすぐ1郭に到着できる。この井戸は現在も水が湧き出ている。

1郭は最長部が100m程で、鶴が羽を拡げた様な不整形の郭で、南西の先端部分に天神社が祀られており、その背後に土塁・土橋のような出っ張りがある。この出っ張りを挟んで、1郭の7mほど下に2郭と3郭がある。2郭の端には5mほどの(あ)の櫓台がある。

この櫓台を起点として、幅8mほどの尾根が南に向かって延びている。1郭から延びる尾根と、櫓台から延びる尾根とがそれぞれ指のように出っ張り、間の谷間になっている部分に居館などがあったと思われる。この尾根に行く途中には(い)の枡形的構造、(う)の尾根上堀といった構造です。尾根上に枡形や堀を造るといのは珍しい構造ですが、この尾根の東側の谷戸の字が「要害」であり、東側くる敵を防ぐための工夫がなされている。この尾根の西側は比高5~6mほどしかないが、岩盤を削って切岸となっており、かなり防御性は高い。2郭から北側に向かっては段々に腰曲輪が続いて、城内に上がる切通しの道もある。

また、(え)の部分は外側に土橋を置き、横堀構造になっている。



池和田城を西方から見た処



1郭に上がる途中にある井戸



1郭の跡地にある天神社



(い)の枡形と尾根の城堡



(お)の切通し跡



5 mほどの削平された檜台

岩井戸城址 (いわいどじょう)

所在地 市原市池和田字岩井戸

築城時期 戦国期

築城主 里見氏の家臣多賀越中守

説明 岩井戸城は、池和田城の東南側の比高20mほどの西側に向かって長く延びた山稜にあった。この南側を平蔵川が流れている。

岩井戸城は、独立した城と言うより

は、池和田城の出丸と思われ、物見台があったと言われている。城址には、空堀や檜台などが残っている。その周囲は急峻な斜面となっているが、南側は緩斜面であったらしく、こちら側には小規模なもので、切岸加工などがきちんとされてるとは言い難いので、遺構面からでは城と言いが難い。



南方向から見た岩井戸城址



岩井戸の語源となる井戸



鶴舞藩家老伏谷氏の墓地

下矢田 (しもやた) 神社・寺院・史跡文化財・城址 八坂神社・法円寺(日蓮宗)・下矢田城

江戸期は下矢田村。古くは矢田村と共に矢田郷を形成していたとも推定される。

地名の由来は、戦いに敗れた源頼朝が当地で再挙を図った時に、勝利を占って矢を射た処、田の中に立ったことが由来という。「や(傾斜地・た(処))で傾斜地という意味。

八坂神社 (やさかじんじゃ)

所在地 市原市下矢田字名代 699 番地

創建時期 不詳

祭神 須佐之男命

相殿 誉田別命

宮司 松井 由香里

由緒・伝説 旧村社。創建年代、由緒不詳。  
里伝によると宝永年間(1704年～1711年)に再興されたという。

境内には金刀平神社(大名持命)、疱瘡神社(大己貴命・少彦名命・天降神社(日本武尊:石宮)がある。

八坂神社の拝殿正面



八坂神社参道入口の鳥居



右側に拝殿の奥に本殿がある



疱瘡神社の石祠と建屋

善性寺 (ぜんしょうじ) 天台宗

所在地 市原市下矢田 191 番地

創建時期 不詳

本尊 不詳

住職 吉野 堯慶

由緒・伝説 本堂等はなく町会自治会館内に  
仏具等は保管されている



金谷地区自治会館の中で、仏具は保管



墓地の墓石を集めた墓石群

下矢田城址 (しもやたじょう)  
 所在地 市原市下谷田字金谷  
 築城時期 不明  
 築城主 不明  
 説明 下矢田城は、下矢田地区の南橋、養老川の懸崖に面した辺りにあった。南の養老川と、それに注ぐ支流とに囲まれた場所で、これらの川が天然の堀となっている。城域の規模は、100m×150m程あると思われる。内部には金谷自治会館の他、数件の民家が建っている。しかし、明確な城郭遺構は見当たらず、北側先端部付近に、堀と思われるようなものが見えるが、その程度です。城であるからには東側の台地続きの部分に堀切などを入れるべきなのですが、現状ではそれらしいものは見当たらないが、この辺には若干の土塁状に見える部分であるが、城郭遺構と断定できない。



田尾 (たび) 神社・寺院・史跡文化財・城址 諏訪神社・田美神社・八雲神社・西光寺(天台宗)  
 龍田寺(真言宗豊山派)・林祥寺(曹洞宗)

江戸期は、田尾村。地域なの「じんばだい」と呼ばれる台地は、戦国期池和田城を攻めた小田原北条氏の陣址とも、同城に援軍として来た大多喜城主・正木大膳の陣跡ともいう。地名の由来は、「たふ(耐ふ)」の転訛で、崖崩れの危険地に見られる地名。

諏訪神社 (すわじんじゃ)  
 所在地 市原市田尾字川崎 981 番地  
 創建時期 不詳  
 祭神 建身名方尊  
 宮司 平田 常義  
 由緒・伝説 創建年代・由緒不詳。社殿の中には小さな祠が三基ある。扁額には「久保台諏訪神社」とある。境内に小御嶽神社 浅間神社がある。注連縄が特殊で、リボンのような飾りがついている。



田尾 諏訪神社の拝殿正面



参道入口の石段と鳥居



本殿内には祠が三基並ぶ



小御嶽神社の石祠

田美神社 (たびじんじゃ)

所在地 市原市田尾字井戸谷 542 番地  
 創建時期 不詳  
 祭神 天照皇大神 神紋 左三つ巴  
 官司 平田 常義  
 由緒・伝説 創建年代・由緒不詳

田美神社の拝殿正面



田美神社の鳥居、上部に幣額



本殿の建物を保護の建屋



拝殿入口、中に神輿が安置

八雲神社 (やくもじんじゃ)

所在地 市原市田尾 290 番地  
 創建時期 不詳  
 祭神 不詳  
 官司 平田 常義  
 由緒・伝説 創建時期・由緒不詳



清流山西光寺 (せいりゅうさんさいこうじ) 天台宗

所在地 市原市田尾 1351 番地  
 創建時期 不詳  
 本尊 不詳  
 住職 石井 堯将  
 由緒・伝説 不詳。本堂左右に運慶・快慶の木造が安置されている。

西光寺の本堂全景



本堂の左右にある運慶・快慶の木像



本堂内部の祭壇

鶴雄山密蔵院龍田寺 (かくゆうさんみつぞういんりゅうでんじ) 真義真言宗豊山派

所在地 市原市田尾字桂澤 364 番地  
創建時期 不詳  
本尊 不詳  
住職 市原 英雄  
由緒・伝説 維新前は旗本水野氏の祈願所で、不動堂の向拝に水野氏の家門が彫刻されており、幾つか位牌も残っている。寺宝に寺号に關係する天然木の龍がある。

龍田寺の本堂正面



龍田寺の本堂内部。祭壇が祀られる



龍田寺本堂の入口

萬年山林祥寺 (まんねんさんりんしょうじ) 曹洞宗

所在地 市原市田尾 1120 番地  
創建時期 文明 13 年 (1482 年)  
本尊 不詳  
住職 池田 良久  
由緒・伝説 文明 13 年に自山元誉和尚の開基。三世雪山秀天和尚の代に火災により焼失、天正 3 年池和田城主多賀彦七郎信繁が再興された。

その後備前守岡山藩主池田綱政の舎弟で備中守生坂藩主池田輝録幕府旗本として地方の鎮護され、信仰を当山に向けられ興隆に盡粹され由緒により、慶安 2 年に徳川家光公より朱印を賜り、その後歴代將軍より朱印を賜る。

元治元年、孝明天皇勅旨による御繪旨を下賜された。釈迦牟尼佛を本尊とし、高祖承陽大師、太祖常濟大師を宗祖と仰ぎ、文殊普賢菩薩、達磨大師、不動明王、觀世音菩薩、地藏菩薩、虚空蔵菩薩、東照大権現、護法諸天善神などを奉安する。

(林祥寺 由緒 沿革書額より)



林祥寺の本堂全景



林祥寺の本堂内部と祭壇



本堂の入口の家門入り横幕



徳川将軍の御朱印寺と孝明天皇御綸旨下賜の標柱



境内に祀られる釈迦如来石像



池田家の宝篋印塔の墓石



境内にある石仏像・地藏類

鶴舞 (つるまい) 神社・寺院・史跡文化財・城址 鶴舞神社・日枝神社・西連寺 (真言宗豊山派)  
 命治5年(1872年)に起立。もとは石川村の一部で、桐木台と呼ばれた原野であったが、明治元年(1868年)に鶴舞藩が立藩した際に陣屋として改革された。  
 地名の由来は、遠州浜松から移封されてきた藩主・井上正直が「鶴が舞うたる慶祥の地」という意味で「鶴舞」と名付けたと言われる説と、鶴が翼を広げた様な地形にちなむという説、石川村の谷間に「鶴舞谷」と呼ぶ池があったことにちなむ説がある。「つる(水流)・まい(浸食地)」で、川沿いの浸食地という意味。

鶴舞神社 (つるまいじんじゃ)

所在地 市原市鶴舞字郭内広小路 624 番地

創建時期 明治3年(1870年)

祭神 稲倉魂命・胡桃下稻荷大神

相殿 秋葉大神・皇産魂命

宮司 平田 常義

由来・伝説 旧村社。明治3年に鶴舞藩士族の信仰により創立。明治28年(1895年)に字雪

解沢にあった鶴舞神社・稻荷大明神・稲葉大神を合祀。稲荷大明神は、旧藩主井上氏が常陸国より勧請したもの。秋葉大神はやはり井上氏が遠州浜松より勧請したもの。

鶴舞神社の拝殿正面





参道いる口の第一鳥居



神社の本殿建屋



明治30年に奉納された手水鉢



本殿手前の狛犬と第2鳥居



拝殿の入口に上部の幣額



稲荷大神の守り神の狐石造

日枝神社 (ひえじんじゃ)

所在地 市原市鶴舞字緑町 256 番地  
 創建時期 不詳  
 祭神 大山咋命 神紋 左三つ巴  
 宮司 平田 常義  
 由緒・伝説 創建年代不詳。」山中にあったが承応3年(1654年)に伊丹氏により遷座された。正徳6年(1716年)に再建された。

日枝神社の本殿と狛犬



鶴舞公園入口にある参道と鳥居



本殿入口の上にある幣額



明治30年奉納の手水鉢

西蓮寺 (さいれんじ)・鶴舞不動堂 真言宗豊山派

所在地 市原市鶴舞 198 番地

創建時期 明治 18 年

本尊 不詳

住職 河津 正雄

由緒迂・伝説 鶴舞不動堂は、明治 18 年 4 月行者、信徒の発願により新勝寺にて開眼供養された不動尊像を勧請し、当地に成田山新栄講仮教会所を開設した。その後隣村より真言宗の古寺（西蓮寺）を移転し、7 ケ年の歳月を労して明治 25 年 4 月に建立された堂宇です。

鶴舞不動堂の本堂全景



西蓮寺（不動尊）入口の看板



西蓮寺鶴舞不動堂の正面



不動堂の右側を写す



地藏様の石仏



浅間大神の石祠



鶴舞不動尊堂の建立の説明碑

鶴舞城跡

所在地 市原市鶴舞字北根来

築城時期 明治元年～3年

築城主 井上 正直

説明 遠州浜松城主から移封してきた井上氏の「鶴舞城」として築かれたが、城としては未完成でした。(版籍奉還や廃藩置県の為) 実態は、「鶴舞陣屋・藩庁」の様相でした。城跡は、現在の鶴舞小学校と北側の幼稚園辺りが一帯で、小学校北側の土塁の上に「鶴舞城」の城跡碑が建っています。遺構は、この城址碑のある土塁以外にも堀の一部と土塁が道路を挟んだ宅地の西側に残っている。その他にも、陣屋・藩庁内にあった井戸が残されている。





土塁上に建つ鶴舞城本丸跡の碑



陣屋・藩庁内にあった井戸と石碑

山小川 (やまこがわ) 神社・寺院・史跡文化財・城址 熊野神社・長泉寺(曹洞宗)・山小川城  
 江戸期は、山小川村。地名の由来は、「(やま(山)・こ(接続詞)・かわ(川))」で、養老川支流の平蔵川に小草畑川が流入する付近に位置する地形を指したもの。

熊野神社 (くまのじんじゃ)  
 所在地 市原市山小川字前堀374番地  
 創建時期 江戸末期

祭神 伊弉札册命・速玉男命  
 宮司 平田 常義  
 由緒・伝説 旧村社。伝承によれば、明治維新より前に鎮座をしていたと言う。

熊野神社の本殿



山小川熊野神社の入口鳥居



熊野神社本殿入口と扁額



本殿内部には三神が祀られる



境内に出羽三山の祠



浅間大神を祀る石祠



手水鉢と雨よけの建屋

玉開山東光院長泉寺 (ぎょくかいさんとうこういんちょうせんじ) 曹洞宗

所在地 市原市山小川字小関谷896番地  
 創建時期 天正2年(1574年)に創立。  
 本尊 不詳  
 住職 関 篤雄  
 由緒・伝説 縁起によると、永正元年村上源氏の流れを汲む幼名秀松は、大永6年11歳の時、比叡山の麓理性院通和尚の弟子となり、法名を驚夢円と改めた。天文12年雲水となり関東に下り山小川地蔵堂に住んでいた時に土地の老翁から、「ここは昔東光院という小寺があったが、焼失したままだ」と聞いた。薬師如来の浄土は東方浄瑠璃なので、一字を造立し「東光院」と号した。のちに弟子の一鑑和尚により「玉開山東光院長泉寺」と称した。



長泉寺の本堂全景



長泉寺入口の山門



本堂入り口と幣額



長泉寺の縁起を記した石碑

山小川城址 (やまこがわじょう)

所在地 市原市山小川字上ノ台・前堀・後堀

築城時期 応永年間

築城主 平朝臣三方秀広秀

説明 山小川城は、山小川の長泉寺の東南にあるAの台地にある。前堀・後堀という地名も残るといふ。市原ぞうの国の北東500m程の所です。

長泉寺の東南、駐車場を隔てて、長軸100m程の台地があり、台地の南側には小草畑川が、北側一帯には水田地帯が広がっている。Aの台地上には遺構としては「堀切」が残っている。

また、Aの南端部には削崖した跡が見られるが、これは城郭加工した跡と思われる。西側の台地との間には、幅20mほどの谷戸部が広がっており、

これを堀としたのか。また、駐車場との間には掘り下げられた跡が見られる。この間にBの土橋状の部分もあるが、その削り方から城の堀と思われ、これが前堀、後堀と言っているのではないか。



矢田 (やた) 神社・寺院・史跡文化財・城址 矢田神社・稲荷神社・

鎌倉期は矢田郷、江戸期は矢田村。古くは下矢田と共に矢田郷を形成していたと推定される。

南北朝～室町期には鋳物生産が盛んとなり、多数の大工を出している。

地名の由来は、石橋山の戦いに敗れた源頼朝が当地で再挙を図った時に、勝利を祈って矢を射た処、田の中に立ったことに由来する。また「やた(弱点・欠点)」で、地滑りがあった事を指すものか。

矢田神社 (やたじんじゃ)

所在地 市原市矢田字上宿89番地

創建時期 不詳

祭神 大山咋命

宮司 松井 由香里

由緒・伝説 旧村社。創建年代、由緒不詳。

明和元年(1764年)に再興された

矢田神社の本殿





神社入り口の鳥居



手水鉢と祠（祭神不明）



出羽三山の石の塚

稲荷神社（いなりじんじゃ）

所在地 市原市矢田70番地

創建時期 不詳

祭神 稲倉魂命

宮司 松井 由香里

由緒・伝説 矢田神社の末社。創建年代、由緒不詳



稲荷神社の本殿正面



稲荷神社参道入口の鳥居



本殿の右側より撮影

戦勝祈願の弓矢を構える源頼朝



## 平三地区概説 (小草畑・平蔵・堀切・米原)

### 概説

地名の由来は、承平天慶年間(930年~940年)この地に、阿弥陀畑に城を構えた紀伊の浪士、土橋平蔵政常によると言われる。この土橋氏は、天正19年(1590年)に豊臣軍に滅ぼされるまで約650年間存続したらしいが、記録にはほとんど残っていない。居住年代についても諸説あり、城の構造から推測して1390年から1590年の約200年ともいわれる。室町時代中期(1400年)には、米原に地蔵信仰の霊山として「曹洞宗大通寺」が開山し、足利氏から寺田を寄贈されている。

応永25年(1418年)に、上杉禅秀の家臣榛谷小太郎重氏を将とし、関東管領に背を向けて根古屋城(米原浅間山)に陣を敷き追討された上総本一揆が起こり、歴史的に上総国支配の転換期を画している。戦国時代この周辺の支配関係については、不明のところが多い。地理的には、長南武田氏の勢力下であるが、武田氏自体が時に里見氏、ある時は北条氏と結びついている中で、近郷7堀を支配していた土橋氏がどのように対応していたのか。

江戸時代には、旗本知行、大名領に分割されたが、明治元年に鶴舞藩井上氏の領地となった。

明治4年鶴舞県が廃止され、木更津県所轄となり、同6年千葉県所轄となった。明治9年には区制のもと平蔵・米原は山小川となり、役場を平蔵に置き、小草畑は吉沢区に編入された。平蔵・米原・小草畑が合併して平三村となったのは、明治22年町村制施行によるものです。その後昭和29年に南総町となる。明治期以降に本地域で特記されるものとしては、金融機関が挙げられる。当時、郡内には5行しかなかった頃に、その内の2行の正信銀行(明治24年開業)・小草畑銀行(明治32年開業)が立地している。これは、当時の生活様式が米や野菜を除いては、山林資源に頼るところが大きかったところから推測して本地域の山林地主の資本力の強大さを示しているものと思われる。やがて正信銀行は現在の千葉銀行に継承され、小草畑銀行は昭和2年の金融恐慌時に建物を茂原に移転したが、その後は不明です。

### 国指定重要文化財

#### 西願寺阿弥陀堂附厨子

所在地 市原市平蔵1360番地

所有者 西願寺

創建時期 明応4年(室町期)

説明 平蔵の金堂と呼ばれ、平蔵城の城主であった平将経が鬼門守護の為に建立された堂は正面3間、側面3間の三間堂で、屋根は茅葺きの寄棟造りです。外部の軒回りは二重の扇垂木で、軒の出が深く、三手先詰組とも美しい構造になっています。内部の組物や架構は、県内の禅宗様の建築物の中でも本格的な様式を取っています。鎌倉の名工の二郎三郎により建立された。



国指定重要文化財 平蔵西願寺阿弥陀堂附厨子

小草畑（こくさばた） 神社・寺院・史跡文化財・城址 浅間神社・金光寺（曹洞宗）・小草畑城址  
江戸期は、小草畑村。地名の由来は、「ふる（古）・くさ（臭）・ばた（端）」の転訛で、川に囲まれた崖地を指したものの。

浅間神社（せんげんじんじゃ）

所在地 市原市小草畑字浅間部田27番地  
 創建時期 不詳  
 祭神 木花開耶姫命  
 宮司 平田 常義  
 由緒・伝説 旧村社。創建年代・由緒不詳

浅間神社本殿全景



参道入口の鳥居から本殿までは、石段と林道が長く続く



本殿前の石燈籠



本殿の入り口としめ縄

金光寺（きんこうじ） 曹洞宗

所在地 市原市小草畑60番地  
 創建時期 不詳  
 本尊 不詳  
 住職 林 哲徳  
 由緒・伝説 創建時期・由緒不詳。  
 現在本堂を改修工事中。



改修工事でシートが掛けられている本堂



境内には観音堂の建物もある



観音堂の手前には地藏様の石仏

小草畑城址 (こくさばたじょう)

所在地 市原市小草畑字結城沢

築城時期 不詳

築城主 不詳

説明 小草畑城は、小草畑地区の中心部にあり、吉沢城の南1, 8 km、平蔵城から西南2, 3 km、根古屋城の西南2 kmほどの位置にあった。吉沢城から、小草畑川に沿って2 kmほど南下して行くと、左手に保育園があるが、その向側の右手の台地上が小草畑城です。台地は、東側に向かって突き出した比高30 mほどのものである。周囲は削られたような崖によって囲まれた山で、削られた斜面のところどころに穴が開いている。山の南側に谷戸部に入り込んでいて、その地を「結城沢」と呼ばれていて、ここが城址と呼ばれる根拠となっている。現在は尾根の基部はゴルフ場になっており、遺構などは見有らない。また、この地域は以前銀鋳があったと言われ、たくさんの穴が掘られており、銀鋳のための加工施設とそれにまつわる人々が住んでいたと思われる。



小草畑城があったという山

平蔵 (へいぞう) 神社・寺院・史跡文化財・城址 熊野大神・大杉神社・西願寺・東陽寺 (天台宗)  
平蔵城跡・西願寺阿弥陀堂附厨子 (文化財)

江戸期は平蔵村。明治22年(1889年)の合併し平三村となった。地名の由来は、天慶年間(938年~947年)紀伊からきた土橋平蔵が居城していたことが由来と言われている。土橋平蔵は、平将門の臣であったという伝説があり、地内の平蔵城の当主は代々「土橋平蔵」を名乗った。西願寺は、土橋平蔵平政常の開基と伝承され、寛政年間(1779年~1802年)の火災により阿弥陀堂以外の七堂伽藍が焼失した。あるいは「平蔵」は本来「ひらくら」と読み、崖と傾斜地を指した地名を指したのか。

浅間神社 (せんげんじんじゃ)

所在地 市原市平蔵2577番地2

創建時期 不詳

祭神 木花開耶姫命

宮司 平田 常義

由緒・伝説 旧村社・創建年代・由緒不詳。明治44年大杉神社(大己貴命)を合祀した。

浅間神社の本殿





本殿手前の朱塗りの鳥居



境内にあった愛宕神社の石祠



本殿左側を撮影

### 熊野大神 (くまのたいじん)

**所在地** 市原市平蔵字元宿1814番地  
**創建時期** 寛平9年(897年)に鎮座。  
**祭神** 天照大御神・伊弉耶岐命・伊弉耶美命  
**宮司** 平田 常義  
**由緒・伝説** 旧村社。北拝。寛平9年の鎮座。  
 大永度郡領主・土橋平蔵が再建。  
 天保再建の社殿は昭和32年に  
 火災により全焼、翌年再建された。  
 明治43年(1910年)天満神社(字天神  
 前:菅原道真)、八幡大神(字下宿:應神天  
 皇)を合祀。大正2年(1913年)日天社(字元居谷:天照大御神)を合祀。  
 境内に稲荷大神(稲倉魂命)がある。

平蔵熊野神社の拝殿正面



神社の参道の石段と奥に鳥居



拝殿の奥にある本殿の建物



稲荷大神の石の祠

### 八幡神社 (はちまんじんじゃ)

**所在地** 市原市平蔵字茶ノ木台606番地  
**創建時期** 不詳  
**祭神** 誉田別命 神紋 右三つ巴  
**宮司** 平田 常義  
**由緒・伝説** 創建年代・由緒不詳



八幡神社の拝殿の正面



階段を上った所に鳥居



拝殿の奥の本殿社がある



鳥居の前に鎮座する狛犬

清泰山三宝院西願寺 (せいたいさんさんぼういんさいがんじ) 天台宗

所在地 市原市平蔵1360番地

創建時期 承平年間に伝教大師により開基。

本尊 不詳

住職 星野 昭栄

由緒・伝説 承平年間(931年~938年)紀伊の武士の土橋平蔵将常が当地に居城し近辺7郷を領していたが、その後仏に帰衣し西方浄土を望むという意味で本寺を建立し、武運長久の鎮守としたと伝える。熊野三社の権現も勧請し、今も境内にある。また明応元年(1492年)領主

・平将経(まさつね)が城の鬼門守護の為七堂伽藍を建立し、阿弥陀如来を安置したのが始まりとも伝わる。土橋氏滅亡後久しく荒れていたが、徳川氏の世になり江戸にてご開帳を行い維持していたが、寛政年間に焼失したが、阿弥陀堂(国指定の重要文化財)だけが残った。当時は金箔が貼られていた堂は金堂とも呼ばれ、飛騨の匠の弟子二郎三郎の建築という。



改修工事中の本堂



阿弥陀堂の内部の祭壇



西願寺阿弥陀堂厨子



国の重要文化財の案内看板



阿弥陀堂の後面写真



境内に並ぶ石仏群



年代を感じさせる石仏群

## 東陽寺 (とうようじ) 天台宗

所在地 市原市平蔵2204番地  
創建時期 不詳  
本尊 不詳  
住職 星野 昭栄  
由緒・伝説 創建年代・由緒不詳ですが、墓石等の年号を見ると江戸中期にはあった。

東陽寺の本堂の正面



本堂入口にある彫刻額



本堂の左面の風景写真



墓石や石仏群

## 平蔵城跡 (へいぞうじょう)

所在地 市原市平蔵字城山・要害・根古屋  
築城時期 承平年間 (平安時代中期)  
築城主 土橋平蔵将経  
説明 平蔵城は、平蔵橋のすぐ西側にそびえる比高60m程の平蔵山にあった。城主は土橋平蔵であると言われる。伝承によると平蔵は平将門が反乱を起こした承平年間に紀州からこの地に来たと言うが、確かではない。ただ、城主は代々土橋平蔵を名乗ってこの城を居城としたことだけは確かである。何代か後の土橋平蔵将経は、城の守護の為に鬼門にあたる東北の平坦部に西願寺を建立した。この寺



の観音堂がいわゆる「平蔵の金堂」と呼ばれる、国指定重要文化財のお堂です。

山頂の1郭は10m×30mほどの細長い各で、中央に盛り上がった部分があり、また北側には土塁のようなものもあるが、いずれも明確ではない。東南の端には、井戸のような窪みがあり、わずかに掘り切られたような部分が虎口と思われる。郭は2、3、4、5、などと段々になっていて、この辺りを「阿弥陀畑」と呼ばれている。4の郭の北側に土塁と虎口がある。このように、平蔵城は、畑地となっている平坦な郭を段々に配置しただけの、割合単純な構造の城郭で、郭数はかなり多く、多くの人数が籠城することも想定される「要害」「根古屋」といった地名からも、戦国期の城であることは明白で、ある程度拠点的な規模の城と考えられる。



城部田城方向から見える平蔵城



切通しの先にある郭跡の畑地



1郭のあった所。削平が甘い

**平蔵城部田城** (へいぞうしろべたじょう)

所在地 市原市平蔵字城部田

築城時期 不詳

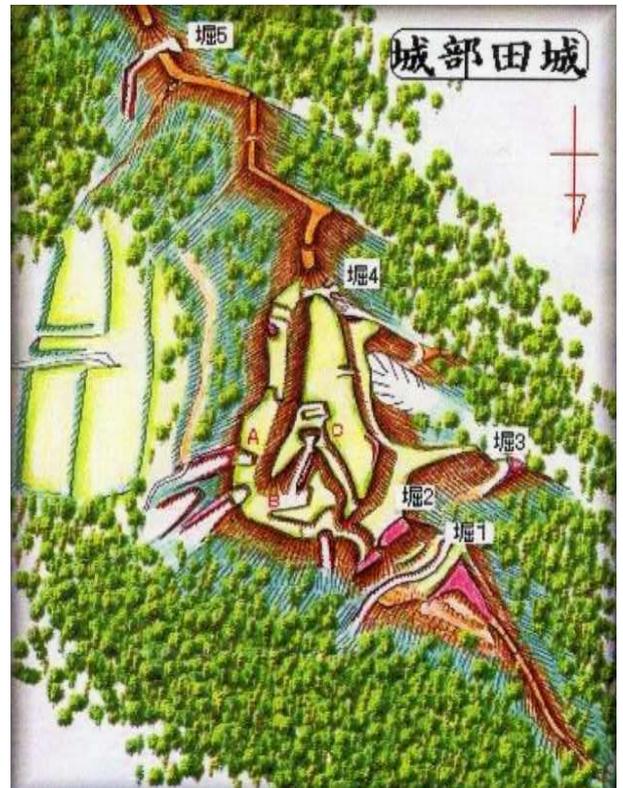
築城主 土橋平蔵

説明 平蔵城のすぐ北側に続いて城部田城がある。台地の基部が平蔵城とつながっており、出城として築かれたと思われる。台地の先端部にあるのが主郭と思われ、その周囲には腰曲輪がある。主郭から台地の基部に向かって、2つ程細長い郭がある。その間には空堀が切られている。城の中心である1郭は80m×15mほどの細長い郭で、北側に向かってV字型に開くような構造になっている。このVの付け根の部分が見事な内枡形になっている。

Aの部分から北側に向かうとBの外枡形の

部分に出る。ここからちょうどV字の開口部となっており、登る道が付けられている。城壘はV字に延びているため、この登城道は両脇の城壘からの攻撃にさらされるようになっていて、かなり堅固な虎口であると思われる。1郭の北側には堀2がある。堀というよりは腰曲輪に近い形状ですが、北の縁にかなり大きな土塁を築いているので、自然と堀切状になっている。その北側には高さ7mほどの切岸となつてさらに大規模に掘り切られている。つまり堀切が二重ではなく二段になっているわけで、かなり力技で区画している。この南側には、自然地形の尾根となっているので、城域の北端はここまでと思われる。

1郭の西側下にも腰曲輪がある。西側に尾根が延びている所が2ヶ所あり、その先端は切岸加工され、下に浅い堀切を伴っている。尾根や腰曲輪の下もしっかりと切岸加工されている。所々崩落もあるので、どこまでが旧状通りなのか分かりませんが、全体的にかなり急峻に加工されている。1郭の南端に堀4がある。深さ7mほどの大規模な堀切です。この堀切から南側には細い尾根が平蔵城の方に向かって伸びている。基本的には自然地形の尾根であると思われるが、所々に切岸状の段差もある。これを100mほど南下してゆくと堀5の所に出る。この堀切の深さは7mほどですが、粘土質の部分を掘り切っているために、垂直面からはまったく取りつく事も出来ない堅固なものとなっている。また、東側下には堅堀が掘られてい



る。このように城部田城は、それほど大規模ではないが、かなり深い堀切や二段の堀を入れ、また、虎口は何重にも枡形を重ねた構造で、かなり技巧的で手の込んだ城で、戦国期にそれなりに城郭構築テクニックを持った者によって築かれたと思われる。

郭の面積に対して、防御遺構が豊富なことから、領主の居館といったものでなく、戦時に際して砦として一気に築かれたものではなかったかと思われる。



東側の国道から見た城部田城



1 郭下の腰曲輪の段差



1 郭南側の堀 4. 深さ 8 m ある

米原 (よねはら) 神社・寺院・史跡文化財・城址 山神社—1・2・大通寺(曹洞宗)

江戸期は米原村。上組・下組の2集落からなっていて、上組を狭義の米原村、下組を上畑村と称したが上畑村は米畑村からの独立を主張し、しばしば争論となった。山神社及び大通寺縁起によれば、応永7年(1400年)の創立という。

山神社 (さんじんじゃ)

所在地 市原市米原字榎戸 5 8 2 番地  
 創建時期 不詳  
 祭神 大山祇命 神紋 左三つ巴  
 宮司 平田 常義  
 由緒・伝説 旧村社。創建時期、由緒不詳。

拝殿の扁額には山神と水神が

並記されている。大正元年(1912年)日天社(字中平代:天照大日靈命)を合祀。

境内に日吉神社(日枝大神尊)・疱瘡神社(大己貴命)がある。

榎戸山神社の拝殿正面



榎戸山神社の鳥居と参道石段



拝殿正面入口



山神社拝殿の奥に本殿が

## 山神社 (さんじんじゃ)

所在地 市原市米原字小里2152番地  
創建時期 応永7年(1400年)  
祭神 大山祇命  
宮司 今関 公之  
由緒・伝説 旧村社。応永7年に足利義光が社殿を創建した。大正4年(1915年)に浅間神社(字富士ノ腰:木花開耶姫命)を合祀。

小里山神社の拝殿の正面



小里の山神社の参道と鳥居



神社の本殿の社



境内にある石燈籠

## 長粳山大通寺 (ちょうこうさんだいつうじ) 曹洞宗

所在地 市原市米原2083番地  
創建時期 応永7年(1400年)に創立  
本尊 不詳  
住職 機道 俊明  
由緒・伝説 開基は、将口沙弥梵那仙人。  
応永7年に創立。月泉良印大和尚の開闢。  
梵那仙人は山の岩窟に住み、長く大きな米を育て里人を驚かせたという。その米はちなみに「長粳山」と号した。  
また、その米により地域も「米原」となったという。仙人が住んでいた仙窟を称して養老の作と言ひ、仙人は梵天国の者で日本に来る時に天の羽衣を纏ってやってきたと言われ、そこから「羽衣の庄」と名付けられたという。



大通寺の本堂全景



境内入口にある地蔵様



多くの地蔵様を納める地藏堂



地藏堂内部の収納石仏

本資料は、次の資料を参考に作成しました。

- ・市原市埋蔵文化財センター遺跡ファイル
  - ・ちょっと便利帳（日本の元号・年代早見表）
  - ・全国遺跡報告総覧
  - ・日本の城郭・城址（千葉県版）
  - ・八百万の神
  - ・市原市・宗教法人一覧
  - ・市原の城郭と国府跡をたずねて
  - ・Wikipedia- 市原郡
  - ・市原市歴史と文化財シリーズ
- ・そのほかに、紹介した寺院・神社の関係者の方々の協力を頂きました。

## 鶴舞・平三地区の地名の由来と史跡と文化財

発行・編集 市原の歴史を知る会

住所 市原市能満1020番地1

連絡先 090-3545-1113